


の旅人の休み所で、総泉寺に移り、大の混乱の中、大善善寺の庭園図をも開放した。

14 板橋



石神井川にかかる橋。板橋の名称は平安時代末期には既に使われていた。粗末な丸木橋が普通だった当時、珍しい板の橋だったことが地名の由来。江戸時代は太鼓橋で、長谷川雪且「江戸名所図会」にも描かれた。この橋より北の上宿、南の中宿、平尾宿の3宿を総称して板橋宿と呼ばれた。橋のもとには高札場があった。現在は木製を模したコンクリート製となっている。

13 本陣・脇本陣跡碑



寛永12年(1635)に参勤交代制および2年後に本陣制が定められ、大名などと庶民の宿泊施設が区別されるようになった。本陣は、参勤交代の大名や格式の高い人などの宿。脇本陣は、本陣の予備的役割を果たす宿のことである。板橋宿は中山道の第一宿であった。平尾宿・中宿・上宿からなり、本陣2軒、脇本陣3軒、旅籠屋54軒があったという。

17 富士・大山道の道標と庚申塔



中山道では富士山は左側に見える。右側に富士山が見えるのはここだけだった。今は庚申塔と道標がある。庚申塔は道標も兼ねており「是より富士大山道」とあり、その下に「練馬江一里、柳沢江四里、府中江七里」とある。万延元年(1860)に建てられたものである。

16 志村一里塚



街道には日本橋から始まり、一里(約4km)ごとに一里塚が立てられた。志村一里塚は日本橋から三里目に設けられた一里塚のことであり、江戸初期、主要街道の整備に伴い築造された。石垣で補強されたのは昭和初期のこと。地下鉄三田線志村坂上駅の本蓮沼側の階段を上ったところにある。

15 縁切榎



江戸時代、ここに大きな榎が生い繁っていた。やがて、榎の下を嫁入りの行列が通ると不縁になると敬遠され、「縁切榎」と呼ばれて、街道の名所となったという。「榎(えのき)は緑の木なれば、あながちに縁を断つことのみならず、善縁をむすび悪縁を断つことこそ神の御心……」と「縁切榎の碑」に刻まれている。

